

平成25年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

(平成25年4月～平成26年3月)

報告書

平成26年9月

国東市教育委員会

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価		
教育委員会	(1) 教育委員会の活動							
	■ 教育委員会の会議の開催	定例会(毎月1回計12回) 臨時会(3回) 計15回開催	会議前に会議資料を送付し事前検討。精力的な論議ができた。		100	A		
		会議録の作成	前回の会議録を事前に送付し委員会時に確認・承認。慎重な論議ができた。		100	A		
	■ 教育現場の実情把握(学校訪問)	教育委員による学校訪問(6月)、学校諸行事参加	学校現場の実績を把握し委員の意見を集約した。	学校訪問では学校数が多いため時間的な余裕がない。	100	A		
	■ 社会教育委員との合同会議	社会教育法の趣旨に則り実施	平成26年2月28日実施	事前協議を行い活発な意見が出された。	100	A		
	■ 広報・情報公開	ホームページによる議案・協議内容要旨公開	実施		100	A		
	■ 教育委員の改選	教育委員5名のうち、保護者である者1名を選出	女性教育委員を選出した。		100	A		
	(2) 教育委員会が管理・執行する事務							
	■ 市教育行政の基本方針を定めること	国東市学校・園教育環境整備計画の推進						
		武蔵西小学校保護者へ「国東市学校・園教育環境整備計画」について説明		「国東市立幼稚園・保育所等あり方について(答申)」を尊重した整備計画を策定する必要がある。	100	A		
		■ 教科書その他教材の取り扱いに関すること	平成25年度使用教科用図書準備	平成25年度に使用される小・中学校教科用図書の準備が完了した。		100	A	
		■ 教職員の人事に関すること	大分県教育委員会の方針に基づき配置(3月)	過員状態になることなく人事異動が出来た。		100	A	
		事務局及び学校その他の教育機関の職員の任命その他人事に関すること	3月末職員人事異動			100	A	
		■ 教育委員会の附属機関の委員の委嘱に関すること	国東市中心障害児就学指導委員会委員の委嘱		12名に委嘱(医師、学校教育関係者、識見を有する者で構成)		100	A
			第5回教育委員会にて承認		12月就学指導委員会を開催し、対象児童生徒を調査し適切に対処した。			
■ 委員会の規則等の制定又は改廃に関すること		規則・規程等の制定、改正を行った。	規則制定、改正 8件 規程制定、改正 4件 要綱制定、改正 4件			100	A	
■ 議会の議決を経るべき議案の原案決定に関すること	条例の制定、改正の原案決定を行った。	条例の改正 7件			100	A		
■ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項の規定による点検及び評価に関すること	教育委員会の職務執行状況の点検及び評価を行った。	H25年9月議会にて議長へ報告		評価委員を選定し学識経験者の知見を活用する。	100	A		

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	(1) 特色ある生涯学習プログラムの整備と提供						
	■ 社会教育委員会の開催	3回開催別府地区研修会、県の研修会、九州地区研修会に参加	・平成25年度社会教育計画の検討と実施状況報告。26年度の計画について意見をいただいた。また、協育ネットワークの現場視察もおこなった。 ・教育委員との意見交換会開催	社会教育委員会の開催時期や協議内容について、時間的制限の中で検討していく必要がある。また、課題について社会教育委員会として研究・調査等を行っていくことが求められる。	100	A	
	■ 公民館運営審議会の開催	国見(2回/8月20日、3月25日開催)	平成25年度の総括、平成26年度の取組みについて意見交換を行った。	地域の要望等に沿った事業実施を検討。	100	A	
		国東(2回/8月22日、3月12日開催)	平成25年度の総括、平成26年度の取組みについて意見交換を行った。	現在4中央公民館ごとに開催している中央公民館長の諮問機関としてこのまま継続したい。	100	A	
		武蔵(2回/7月26日、3月17日開催)	平成25年度の総括、平成26年度の取組みについて意見交換を行った。	地区公民館との連携、事業分担等の協議が必要である。	100	A	
		安岐(2回7月30日、2月27日開催)	平成24年度の総括、平成25年度の状況報告、26年度計画について意見交換を行った。	地区公民館活動内容と地域の連携 中央公民館長期的全体計画を立てる必要性	100	A	
	■ 公民館活動	公民館講座(公民大学・くにさき塾等自主講座)	4中央館合同での募集実施	募集チラシについて、講座の内容がより分るよう検討していく必要がある。	100	A	
		自主講座の活動発表					
		国見:文化芸能発表会(3月16日みんなかん)	国見公民大学「楽習館」、文化協会と合同で学習成果の発表会・作品展示等を行った。	学級生の高齢化等により受講者数の減少が顕著なため、新規加入学級受講者の確保の必要がある。(地域事情等を考慮して組織的に取り組む必要がある。)	90	A	
		国東:くにさき生涯学習フェスタ	2/8フェスタ開催:入場者数600名	昨年を上回る入場者を得たが、さらに集客努力を行い、広く生涯学習の広がりを構築していく必要がある。	100	A	
		武蔵:武蔵カルテihal(2月16日実施)	発表団体、作品展示数の増	小学生(子供会)の作品応募・発表参加が減少傾向にある。	100	A	
		安岐:公民館まつり(3月9日開催)	公民館自主講座1年間の学習成果の発表	会場の関係で芸能発表と作品展示会場を分離し開催しなければならないこと。	100	A	
		館長・主事会議の開催					
		中央公民館長・副館長会議	4中央館長の会議をおこない、各地区館の現状や取り組み状況の確認を行った。	過去の反省から16地区館長主事会議は開催しなかった。それぞれ旧町ごとや地区館毎の活動に温度差があるのと全館が集まって話をするのが困難なため旧町ごとの館長主事会議とした。引き続き地域性を重視しながらも市全体として方向性を確認しながら活動をつなげていかなければならない。	90	B	
		国見地区(3回)	3館の事務打ち合わせ、事業報告、事業計画協議、情報交換を行った。	地域性等の各地区公民館の特徴を考慮した活動を実施する必要がある。	90	A	
国東地区(2回)		6館の事業報告、情報交換	情報交換による更なる活性化を図る。	100	A		
武蔵地区(12回)	2館の事業報告、情報交換	地域活性化のための地区公民館行事の実施	100	A			
安岐地区(毎月20日実施)年間12回	5館の事業報告、情報交換 各地区館とも地域に根ざした活用をするようになった。	更なる充実・活性化を図る必要がある。	100	A			

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	■ 公民館活動	地区公民館活動					
		共通	地区公民館活動交付金	平成21年度から16地区公民館に活動交付金を給付し、地域性を考慮しながらの地域生涯学習の推進に役立っている。	交付金の交付を始めて4年目を迎えるため、交付金の活用状況について詳細な調査・検討を考えたい。	80	B
			地区公民館活動推進委員会の開催	地区内の区長、学校関係者、PTAほか各種団体等の代表により、地区公民館の年間行事等を企画。地域独自の有効な事業を企画している。	地区公民館を拠点とした地域活性化に向けた諸施策の企画運営。地区公民館によっては運営委員会の十分な機能が図られていない状況も見られるため、館長・主事研修等を充実させる必要がある。	90	B
		国見	(竹田津) ・花いっぱいによるおもてなし運動の実施 ・地区内の伝統行事(巫女舞)の継承活動の支援 ・自主講座の推進	地区公民館活動の周知が地域に広がりつつある。	広報活動をより活発に行い、公民館活動の周知の必要がある。	80	A
			(伊美) ・花いっぱい運動(プランター・土・花苗の配布)の実施 ・歴史探訪歩こう会の開催(地区内史跡ボランティアガイド)	地区公民館活動の周知が地域に広がりつつある。	継続性のある企画・立案を行う必要がある。	80	A
			(熊毛) ・地区公民館だよりの発行 ・花いっぱい運動(プランター配置)の実施 ・ふれあいハイキングの開催 ・三世代グラウンドゴルフ大会の開催 ・バトミントン・卓球教室の実施 ・陶芸教室・しめ飾り教室の開催 ・史跡探訪ウォーキングの開催 ・民謡教室の定期開催 ・熊毛地区大演芸祭の実施	大演芸祭も定着し、地域の子ども会・他地区からの交流出演等出演団体も増え、地域に楽しい話題が提供できた。新しい教室も開催し、よりバラエティに富んだ活動が展開された。	文化部の専門部を中心に企画・運営を実施した。各行事とも、反響が想像以上に大きいため、今後も努力を続けて欲しい。	100	A
			(来浦) ・総合文化祭の開催 ・神楽保存継承 ・高齢者大学の開講・公民館講座開講	小学校がなくなり、地域のふれあいが少なくなったが、来浦公民館が地区のふれあいの場となっている。	少子高齢化の波を受け、参加者が減少している。どう行事を維持するか、参加者を確保するかが課題。	100	A
			(富来) ・地区文化祭の開催 ・地区内納涼盆踊りの実施 ・高齢者大学の開講	納涼盆踊りを開催し地区内の調和につながれた。	少子高齢化の波を受け、参加者が減少している。どう行事を維持するか、参加者を確保するかが課題。文化祭の展示部門の出品が少ない。対象者の発掘を行う。	100	A
		国東	(上国崎) ・地区文化祭の開催 ・高齢者大学の開講 ・神楽・演劇活動の保存継承	小学校がなくなり、地域のふれあいが少なくなったが、上国崎公民館が地区のふれあいの場となっている。	少子高齢化の波を受け、参加者が減少している。どう行事を維持するか、参加者を確保するかが課題。	100	A
			(豊崎) ・地区文化祭の開催 ・地区館主催の歴史を学ぶ会の開催 ・高齢者大学の開講	小学校がなくなり、地域のふれあいが少なくなったが、豊崎公民館が地区のふれあいの場となっている。	少子高齢化の波を受け、参加者が減少している。どう行事を維持するか、参加者を確保するかが課題。	100	A
			(国東) ・新春お楽しみ会の開催 ・高齢者大学の開講 ・分館長研修	世代間、行政区間の交流が活発になった。	対象人口が多く、統一的な事業実施が難しい。より多くの人が参加できるような広報活動の充実をはかる。	100	A

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	■ 公民館活動	国東 (旭日) ・高齢者大学の開講 ・広報誌発行・地区運動会	広報誌を発行し、地区民に公民館活動をお知らせすることにより、公民館活動への理解が得られた。	地区内行事を周知するため、広報誌の恒常的な発行	100	A	
		武蔵 (武蔵西) ・武漢学級(高齢者学級)の開催	年10回開催 高齢者の健康維持と生きる力となっている。	地域を支えていくための“人づくり”が必要である。	100	A	
		武蔵 (武蔵東) ・れんげ学級(高齢者学級)の開催	年10回開催 高齢者の健康維持と生きる力となっている。	学級の参加を増すための送迎が困難である。	100	A	
		(西武蔵) ・第225回梅園祭 ・第5回まんぶく祭 ・地区館各種講座 ・子供神楽の継承	・地区内外の多数の参加を得ることができた。午後ゲートホール、短歌会の開催 ・地域の祭り、市内の行事等で披露 ・地区団体が地区館と連携しながら活動中	・参加者の高齢化。移動手段の確保。小中学生や一般若年層への呼びかけ企画検討 ・地区イベントや団体個々の活動に取り組んでいるが、参加人数が固定化されつつある。 ・広報活動の充実	100	A	
		(朝来) ・第90回朝来地区公民講座 ・第25回朝来地区盆踊り大会 ・あさぎりふれあい祭り	・地域の方々の勉強会やふれあいの場となっている。 ・伝統の継承と高齢者の生きがいの持てる企画運営	講師の選定 高齢者の交通手段の確保	100	A	
		安岐 (西安岐) ・夏祭り見立て細工出展等 ・ふれあい盆踊り大会 ・地域づくり講演会 ・ふれあい公民館まつり ・婦人会研修	・親睦と健康づくりを図ることが出来た。 ・地域活性化に向けた取り組みにつながっている。	・チームが減少傾向にある ・少子、高齢化によりチーム減少 ・多くの参加と宣伝の工夫 ・婦人会活動の活性化	100	A	
		(安岐) ・楓江ふれあいまつり ・食育教室 ・青少年駅伝大会 ・歴史学習 ・講座発表会	・人の交流・親睦ができた。 ・食や健康について関心が高まっている。 ・国東市駅伝競走大会の練習を兼ねて、標記の大会に参加した。子どもたちはそれに向かってしっかり練習するので目標を持った練習ができた。 ・身近なところから歴史について学ぶことで、ひろがりを見せている。	・地区内で各行事に対して、協力し合える体制が出来つつある。	100	A	
		(南安岐) ・軽スポーツ大会 ・健康作りウォーク ・盆踊り大会 ・向陽祭 ・歴史探訪	・親睦と健康づくりを図ることが出来た。 ・地区活性化の動きと連動して相乗効果をもたらしている。	事業の継続実施	100	A	
		体育行事					
		国見 (竹田津) ・地区体育大会の開催 ・newスポーツ大会の開催 ・3地区・世代交流グラウンドゴルフ大会の開催 ・国東市駅伝競走大会への支援	長年続けてきた地区体育大会をより発展的に開催でき、さらにnewスポーツ大会・グラウンドゴルフ大会では幅広い年代間の交流ができた。	さらに、活動を広げていきたい。具体的には健康歩こう会等を計画したい。	90	A	

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
生涯学習の振興	■ 公民館活動	国見 (伊美) ・小学校運動会と国見中学校運動会に参画 ・3地区・公民館長杯グラウンドゴルフ大会を開催 ・国東市駅伝競争大会への支援 ・歴史探訪歩こう会の開催(10kmコース)	地域に地区公民館活動の周知ができ、地域の協調性が再認識できた。	全地区からの参加が得られるように、参加者の募集方法・参加形態等検討する必要がある。	90	A
		(熊毛) ・3地区・ふれあいグラウンドゴルフ大会の開催 ・小学校運動会と共催による地区民体育大会の開催 ・バトミントン・卓球教室の定期開催 ・国東市駅伝競走大会への支援	三世代の年の開きを補いつつ大会運営がなされ、グラウンドゴルフ大会では交流会も地域ごとに楽しくできた。	体育部の専門部を中心に企画・運営を実施した。各行事とも、反響が想像以上に良いため、今後も努力を続けて欲しい。地区民体育大会については、小学校との大会運営に関しての十分な協議が必要である。	90	A
		(来浦) ・春季スポーツ大会の実施 ・秋季スポーツ大会の実施	・地区対抗身にバレーボール大会の実施 ・地区内交流軽スポーツ大会	参加する地区民の数を増やしていく必要がある。	100	A
		(富来) ・秋季運動会の実施 ・国東市駅伝競走大会への出場	・雨のため中止 ・有志の方による、指導により、世代間交流が図られた。	参加する地区民の数を増やしていく必要がある。	100	A
		国東 (上国崎) ・地区民体育大会の実施 ・グラウンドゴルフ大会・ミニバレーボール大会の実施 ・ソフトボール大会の実施 ・国東市駅伝競走大会への出場	体育大会等に、多くの地区民が参加し盛大に開催できた。	地区民の協力や参加はあるが、少子高齢化により、今後これを継続できるかが焦点。	100	A
		(豊崎) ・運動会の実施 ・3世代ふれあいパークゴルフ大会の実施 ・国東市駅伝競走大会への出場	地区民も子どもと一緒に活気に満ちた大会となった。	地区民の協力や参加はあるが、少子高齢化により、今後これを継続できるかが焦点。	100	A
		(国東) ・グラウンドゴルフ、パークゴルフ、ゲートボール大会の実施 ・国東市駅伝競走大会への出場	各種の軽スポーツ大会が実施でき、地区民の健康増進に貢献できた。	行政区数が多く、大会の開催に苦慮しているが、地区内健康増進のため、軽スポーツ大会等の開催に努めていく必要がある。	100	A
		(旭日) ・小学校との合同運動会 ・グラウンドゴルフ・ミニバレーボール・ゲートボール大会 ・市駅伝大会への参加	軽スポーツの推進で地区内の調和と健康の増進が図れた。	軽スポーツは参加者が限定される傾向にあるため、多くの地区民への呼びかけが必要。	100	A
		武蔵 (武蔵西) ・小学校との合同運動会 ・スポーツクラブ 駅伝大会 ・菜の花カップマラソン大会参加 ・土曜スクール ・グラウンドゴルフ教室 ・市駅伝大会への参加	合同で体育大会を開催することで地域の方々と、学校との交流が深まり、地域に活力が生まれた。又、軽スポーツ大会等を開催することで、高齢者の健康維持とふれあいが図れた。	指導者の確保と事業を行う際のボランティアの養成。	100	A
		(武蔵東) ・スポーツクラブ 駅伝大会 ・菜の花カップマラソン大会参加 ・スマイルホーリング大会 ・グラウンドゴルフ教室 ・市駅伝大会への参加	地域の中で体育行事に対して参加をしよう、協力をしようとする意識が広がった。	指導者の確保と事業を行う際のボランティアの養成。	100	A

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	■ 公民館活動	(西武蔵) ・ゲートボール大会、グラウンドゴルフ大会 ・軽スポーツ大会活動・ウォーキング	・地域の接点、活性化を図る場となっている。	・高齢化と子どもの減少	100	A	
		(朝来) ・スマイルホール大会 ・マラソンソフトボール大会 ・ゲートボール大会 ・館長杯ゲートボール大会 ・館長杯グラウンドゴルフ大会	・多くの参加で、地域の活性化を図ることが出来た。	・人集め ・雨天時の対応	100	A	
		(西安岐) ・地区内名所歩こう会 ・館長杯ゲートボール大会 ・館長杯グラウンドゴルフ大会 ・からす市駅伝 ・ミニバレーボール大会	・親睦と健康づくりを図ることが出来た。	・チームが減少傾向にある ・少子、高齢化によりチーム減少 ・多くの参加と宣伝の工夫 ・婦人会活動の活性化	100	A	
		(安岐) ・公民館長杯ゲートボール大会 ・ふれあいグラウンドゴルフ大会 ・青少年駅伝大会 ・軽スポーツ大会	・ゲートボールをする人の交流・親睦ができた。 ・初心者の参加もあり、楽しくできた。互いの交流の機会になり、来年も是非と言う声が多かった。 ・国東市駅伝競走大会の練習を兼ねて、標記の大会に参加した。子どもたちはそれに向かってしっかり練習するの で目標を持った練習ができた。	・地区内で各行事に対して、協力し合える体制が出来 つつある。	100	A	
		(南安岐) ・軽スポーツ大会 ・三世代ふれあい行事 ・森林体験教室(妙見山登山) ・南安岐グラウンドの清掃作業 ・芸能発表会の練習	三世代スポーツ大会実施 樹木の名前と働きについて実習登山(中学1年生、老人 クラブ等) 小学生と共に清掃作業 子供会の出演のための練習	各種事業の継続実施	100	A	
		青少年健全育成事業					
		国見	(竹田津) 青少年健全育成竹田津地区協議会への助成・活動支援 ・交通安全指導・パトロール活動の実施 ・稲刈り・芋ほり・炭焼き体験学習の実施 ・竹っ子通学共同宿泊体験事業の開催 ・竹っ子ふれあい収穫祭の開催	学校・地域・家庭三者による地域ぐるみの子育て支援活 動が展開された。 通学共同宿泊体験事業は、新たな試みであったが、協 調性、自立性に成長が見られた。またふれあい収穫祭で は、老人クラブ等、地域との交流が図られた。	学校と地域との協調性はよく保たれている。平成21年 度から導入された地区公民館制度と事業推進をしてい くなかで、三者が交流をし、よりよい対応を探ることが必 要である。	90	A
			(伊美) 青少年健全育成伊美地区協議会への助成・活動支援 ・人権フェスティバル ・高齢者ふれあい交流・子ども歌舞伎公演の開催 ・福祉施設、公共施設等訪問の実施	学校・地域・家庭三者による地域ぐるみの子育て支援活 動が展開された。 人権フェスティバルでは、町内小・中学校の児童生徒に よる作品の展示等を実施する。ふれあい収穫祭では、老 人クラブ等、地域との交流が図られた。	学校と地域との協調性はよく保たれている。平成21年 度から導入された地区公民館制度と事業推進をしてい くなかで、三者が交流をし、よりよい対応を探ることが必 要である。	90	A
			(熊毛) 青少年健全育成熊毛地区協議会への助成・活動支援 ・登下校見守りボランティア活動の実施 ・各地区敬老会への参加、独居老人宅・施設訪問の実施 ・稲刈り・芋ほり体験学習の実施 ・熊毛っ子祭り・ちびっ子料理教室の開催	学校・地域・家庭三者による地域ぐるみの子育て支援活 動が展開された。熊毛っ子祭りでは、老人クラブ等、地 域との交流が図られた。	学校と地域との協調性はよく保たれている。平成21年 度から導入された地区公民館制度と事業推進をしてい くなかで、三者が交流をし、よりよい対応を探ることが必 要である。	90	A

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価

A 成果が上がり目標を十分達成している
C 取組みが不十分で改善の必要がある

B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
生涯学習の振興	■ 公民館活動	(来浦) ・地区内交流系スポーツ大会 ・子ども会敬老会慰問 ・子ども神楽活動支援 ・子ども会活動支援	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	子どもの減少により事業の検討が必要 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索。	90	B
		(富来) ・富来ソーラン ・3世代ふれあい奉仕活動の実施	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	少子高齢化の波を受け、参加者が減少している。どう行事を維持するか、参加者を確保するかが課題。	90	B
		(上国崎) ・環境美化運動(世代間交流) ・ふれあい雄渡牟礼登山	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	少子高齢化の波を受け、参加者が減少している。どう行事を維持するか、参加者を確保するかが課題。	90	B
		(豊崎) ・3世代ふれあい事業(パークゴルフ) ・国東市駅伝大会の出場	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	少子高齢化の波を受け、参加者が減少している。どう行事を維持するか、参加者を確保するかが課題。	90	B
		(国東) ・人権標語の募集 ・3世代交流グランドゴルフ大会の開催 ・会報「くにさきっ子」発行 ・奉仕作業	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	地区内が広いいため、14区をどうまとめていくかが課題。	90	B
		(旭日) ・ゆめさき体験スクール(毎月1回開催) ・国東市駅伝大会の出場 ・3世代交流事業(4区で開催) ・放課後児童クラブを地区館で実施	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	子どもの減少と両親の共働き等の影響で放課後の子ども対策として、公民館を拠点として放課後児童クラブ、学びの教室等の各種事業を学校と連携して実施していく必要がある。	90	B
		(武蔵西) ・子ども教室の開催(毎月1回開催) (体験学習等) ・土曜スクールの開催(毎週開催) (ドリル学習)	地域の学校は、地域で守り、育てようとする活動の輪が広がり、学校との連携もより良い方向に進んでいる。	地域を支えていくための“人づくり、が必要である。	100	A
		(武蔵東) ・子ども教室の開催(毎月1回開催) (体験学習等)	地域の学校は、地域で守り、育てようとする活動の輪が広がり、学校との連携もより良い方向に進んでいる。	地域を支えていくための“人づくり、が必要である。	100	A
		(西武蔵) ・子供神楽継承 ・親子ふれあい行事 ・彼岸花植付け作業	・地域の接点、活性化を図る場となっている。	・高齢化と子どもの減少	100	A
		(朝来) ・スマイルホーリング大会 ・カルタ大会 ・盆踊り大会子ども太鼓、子供口説き	・多くの参加で、地域の活性化を図ることが出来た。	・人集め ・雨天時の対応	100	A

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	■ 公民館活動	(西安岐) ・地区内名所歩こう会 ・地区子ども会育成 ・親子星空観察会 ・からす市駅伝	・親睦と健康づくりを図ることが出来た。	・チームが減少傾向にある ・少子、高齢化によりチーム減少 ・多くの参加と宣伝の工夫 ・婦人会活動の活性化	100	A	
		安岐 (安岐) ・公民館長杯ゲートホール大会 ・ふれあいグラウンドゴルフ大会 ・青少年駅伝大会 ・軽スポーツ大会 ・子ども会盆踊り大会	・ゲートホールをする人の交流・親睦ができた。 ・初心者への参加もあり、楽しくできた。互いの交流の機会になり、来年も是非と言う声が多かった。 ・国東市駅伝競走大会の練習を兼ねて、標記の大会に参加した。子どもたちはそれに向かってしっかり練習するので目標を持った練習ができた。	・地区内で各行事に対して、協力し合える体制が出来つつある。	100	A	
		(南安岐) ・軽スポーツ大会 ・健康作りウオーケ ・夏休みラジオ体操会 ・保育園ふれあい交流会	・親睦と健康づくりを図ることが出来た。 ・地区活性化の動きと運動して相乗効果をもたらしている。 ・幅広い年代の交流を行っている。	事業の継続実施	100	A	
	■ 女性教育	女性学級の実施					
		国見:1学級	実施なし。	定期開催の実施、幅広い学習プログラムを検討する必要がある。	0	C	
		国東:学級生44名(毎月開催)	女性教育の一助 人権研修を含め、各方面の講師による講演を実施	会員数が増加しない。加入促進に向けた取り組みが必要。	100	A	
		武蔵:学級生17名(年間9回開催)	女性教育の一助	学習成果の実践活動	100	A	
	■ 成人(高年)教育	高齢者学級の実施					
		国見:1学級	実施なし。	会員の減少があり、新規学級生の確保を図るため、老人クラブ・地区公民館との連携の必要がある。	0	C	
		国東:6地区館	高齢者の生きがいづくりや生涯学習への意欲の向上	毎年、毎月の開校なので講演等がマンネリにならないように工夫する必要がある。	100	A	
		武蔵:高年教育2学級 人権教育推進学級	各10回開催・幅広い学習の展開が出来た。 年間4回開催・人権に対する諸課題を講師を招き開催	交通手段・男性学級生の募集。 県内の講師に限定される。	100 100	A A	
		安岐:自主講座	安岐:8講座・各年10回開催	高齢の為、交通手段の確保が問題。	100	A	
	■ 家庭教育	家庭教育の推進					
		家庭教育支援(講師謝金等) 家庭教育講演会の開催	市内小学校、幼稚園、保育園保護者を対象に家庭教育講演会を2回実施。 家庭教育学習会(安岐中央小1回)の実施。	参加者が少なく、時間や日程を工夫する必要がある	80	B	
		安岐:家庭教育学級 8月21日実施	・成長段階に応じての子供の対応や子供が納得するまで待つことの大切さなどを学ぶ。	・父親の参加、子連れで参加した場合の保育 ・講師の選択	100	A	

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
生涯学習の振興	■ 社会人権・同和教育	社会人権・同和教育の推進				
		くにさき地区人権・同和教育協議会	年2回の研修会と先進地視察を実施。先進地(飯塚市、北九州市)視察では、飯塚炭鉱の関連施設、飯塚霊園でのフィールドワークや「在日大韓基督教会の在日人権資料センター」、「北九州市ホームレス支援機構」を訪問した。 講演会：2回(5/27、3/14) 先進地視察研修：飯塚市、北九州市(11/14・15)	構成団体は、姫島村及び国東市。実施事業に対し姫島村からの参加は少なく、また事務局は常に社会教育課が担当している。組織としては、合併前の「東国東郡人権教育研究協議会」を引き継いだものであり、姫島村に「人権教育啓発推進協議会」が組織されれば、存続の検討が必要となる。	100	A
		人権フェスティバルの開催	国東市人権・同和教育啓発推進協議会の下部組織である「人権のまちづくり部会」を旧町ごとに組織している。各々の町づくり部会で、平成21年度から人権フェスティバルを開催し市民への人権意識の高揚を図っている。	人権フェスティバルは旧町単位で毎年開催しているが、参加者が少ない、内容がマンネリ化している等の課題がある。今後は、地域に根づいたものにするためには内容等についてなお検討する必要がある。	100	A
		地区人権学習会	市内全行政区で同一テーマで、同一の内容(国東市人権意識調査・同和問題・女性問題)や使用する教材(DVD)についても、統一して取り組んだ。今年度のテーマを「女性問題と同和問題」に設定し、各地区で学習会を開催した。	130行政区、136会場の中、実施ができたのは、127行政区、132会場。同和問題に対する認識が有るものの依然として「寝た子を起すな」論が根強い、学習案の更なる精査が必要と考える。参加者については、依然高齢者が中心であり、今後も増加は難しいと思われるが、様々な機会や団体等に働きかけ幅広い層に学習機会を提供する必要がある。	90	B
		中学生・高校生人権コンサートの開催	12/8 国見中学校360人(生徒、保護者、教師外)人権バンド:「願児我楽夢」人格形成に大切な成長期の人権教育の推進に寄与できた。	年々人権バンドの活動団体が少なくなっており、出演者を探すのに苦労する。	100	A
	人権・同和の啓発活動	市報に毎月1ページの紙面をもらい人権に関する記事を掲載し啓発に務めている。また、8月の運動月間、12月の運動週間に啓発チラシを作成し、全戸配布した。	市報については、内容についても豊富になったと考える。今後は、市のホームページを利用した啓発も考える必要がある。	100	B	
	■ 図書館事業の推進	図書館協議会の開催				
		・第1回協議会開催(7/8) 武雄市図書館と小郡図書館視察 ・第2回協議会開催(3/20)	図書館事業運営等に対して多くの意見や要望があり今後の図書館サービス向上のための参考になった。	協議会の開催時期・回数・内容等に関して検討する必要がある。	100	B
		図書館の事業				
		・4館共同企画「おりがみ教室」 ・高齢者・障がい者向け本の宅配サービス事業 ・学校・施設向け本の配送サービス事業 ・ブックスタート事業(乳児健診、1歳6ヶ月健診時) ・図書館広報紙「どくしょがいちばん」の発行(毎月) ・ボランティアとの協働で読み聞かせ会の実施	・本の宅配(配送)事業は、利用者拡大と学校連携の強化のために始めた事業であるが、利用者には好評である。 ・おりがみ教室は、利用者からの要望もあり実施したが、毎回好評である。	・本の宅配業務は利用者には、好評であるが、広報活動が不十分のため、利用者の拡大には繋がっていない。 今後は広報活動の検討が必要である。 ・学校への本の配送サービスについては、授業に使用される資料を学校と連携を取りつつ、計画的に購入する。また学校にサービスの利用を呼びかける。	100	B
(国見図書館) ・こどもの読書週間行事「本をたくさんよんでスタンプをあつめよう」 「おりがみでとしょかんをかざろう」 ・秋の読書週間「えほんでせかいいっしゅう」「オリジナルしおりをつくろう」 ・県立図書館本の団体借入 ・おはなしひろば(ボランティア)月3回		・館内に県立図書館コーナーを設置しており定期的(3か月に1回)に本の入れ替えを行なっている。それを楽しみにしている利用者も多い。(年間 2,400冊)	・利用者の要望を考慮しながら新規利用者の拡大に努める。	100	B	

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯教育の振興	■ 図書館事業の推進	(くにさき図書館) ・子ども読書週間行事「本をたくさんよんでスタンプをあつめよう」「おりがみでとしょかんをかざろう」 ・中学生の職場体験、インターンシップ、社会見学の受入 ・「図書館まつり」の開催。(8/17) ・秋の読書週間行事「おはながみアート おはながみでさ吉くんをつくろう」 ・「くにさき図書館クリスマス会」の開催(12/23) ・おはなし会(ボランティアとの協働) 月2回	ブックスタート事業等を通じて「おはなし会」の参加が増えている。	・イベントを実施した場合、一時的には、利用者が増えるがその後の支援が十分でないため、継続的な利用には繋がっていない。	100	B	
		(武蔵図書館) ・子ども読書週間行事「本をたくさんよんでスタンプを集めよう」「おりがみでとしょかんをかざろう」 ・図書館イベント(夏休み工作教室 クリスマス工作) ・新1年生見学会の実施 ・中学生の職場体験、インターンシップの受入 ・秋の読書週間行事「ぐりとぐら50周年」「おりがみでとしょかんをかざろう」「としょかんクイズ」 ・おはなしのへや(ボランティアとの協働) 月4回 ・映画会、出前おはなし会(すこやか館で年5回)	・新1年生見学会の時に全員の図書館利用者カードを作成している。	・図書館イベントの参加者が減少傾向にあるため、利用者拡大のための対策が必要である。 ・新1年生見学会が、他の3館でも実施できるよう検討する必要がある。	100	B	
		(安岐図書館) ・こどもの読書週間行事「本をたくさんよんでスタンプをあつめよう」「おりがみでとしょかんをかざろう」 ・図書館まつり(8/19) ・秋の読書週間行事「ぐりとぐら50周年 お絵かき大募集」「小説で巡る日本一周」 ・クリスマス会(12/8) ・県立図書館本の団体借入 ・ひまわりのへや(ボランティア) 月1回	・館内に県立図書館コーナーを設置しており、定期的(3カ月に1回)に本の入れ替えを行なっている。利用者には好評である。(年間2,000冊) ・図書館まつりは夏休みの平日に実施しているが、バスでの送迎があるため、子どもたちが参加しやすいようになっている。	・県立図書館の団体本借入れは、毎回好評であるため今後も継続する。 ・休日になると観光客からの問い合わせが多いため、それに対応するための工夫が必要である。	100	B	
		図書館利用者数					
		(4館) 利用者拡大に向けた図書館事業及び図書館管理システムの構築により4館の連携を図る。	移動図書館を市内全小学校に拡大したことにより4館とも利用者・貸出冊数が増加した。	広報・ホームページ・ケーブルTVを通じ新規利用者の拡大に努めたい。また、4館の連携を図り利用者の利便性をさらに向上させたい。	90	B	
		(国見図書館) 貸出利用者数 8,153人 貸出冊数 37,254冊	・貸出利用者数(対前年度比) 5.4%増 ・貸出冊数(対前年度比) 7.0%増	図書館資料の充実、選書、施設の環境整備	90	A	
		(くにさき図書館) 貸出利用者 19,496人 貸出冊数 79,533冊	・貸出利用者数(対前年度比) 2.9%増 ・貸出冊数(対前年度比) 5.8%増	図書館資料の充実、選書、施設の環境整備	90	B	
(武蔵図書館) 貸出利用者数 10,896人 貸出冊数 42,181冊	・貸出利用者数(対前年度比) 6.0%増 ・貸出冊数(対前年度比) 1.6%増	図書館資料の充実、選書、施設の環境整備	90	B			
(安岐図書館) 貸出利用者数 14,388人 貸出冊数63,008冊	・貸出利用者数(対前年度比) 18.1%増 ・貸出冊数(対前年度比) 10.4%増	図書館資料の充実、選書、施設の環境整備	90	A			

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
生涯学習の振興	■ 図書館事業の推進	移動図書館				
		(4館) 市内の小学校 11校で実施	貸出利用者数 延べ 6,137人 貸出冊数 15,649冊	多くの児童が利用できるよう、呼びかけ強化に心がける。	90	B
		(国見図書館) 竹田津小、伊美小、熊毛小の3校で実施	貸出利用者数 延べ 1,028人 貸出冊数 2,413冊	1カ月に1回のペースで実施しているため、継続的に利用してくれるような工夫が必要である。	90	B
		(くにさき図書館) 国東小・富来小、小原小の3校で実施	貸出利用者数 延べ 1,704人 貸出冊数 4,873冊	1カ月に1回のペースで実施しているため、継続的に利用してくれるような工夫が必要である。	90	B
		(武蔵図書館) 武蔵西小・武蔵東小・旭日小の3校で実施	貸出利用者数 延べ 838人 貸出冊数 1,990冊	1カ月に1回のペースで実施しているため、継続的に利用してくれるような工夫が必要である。	90	B
	(安岐図書館) 安岐小・安岐中央小の2校で実施	貸出利用者数 延べ2,567人 貸出冊数6,873冊	1カ月に1回のペースで実施しているため、継続的に利用してくれるような工夫が必要である。	90	B	
	(2) 指導者の育成と団体等の活動支援					
	■ 女性団体の育成	市連合婦人会の育成・指導	補助金の支給(120万)	市内駅伝や男女共同参画事業など市に事業に協力をしているが、活動内容の広報を行い、会員に増加を図る必要がある。また、女性団体のリーダー的な存在となり、地域活性化の主体となっていく必要がある。	90	A
		豊の船の育成・指導	補助金の支給(国東・武蔵2町の各団体へ支給)	県が事業として行っていた豊の船事業はすでに終了しており、当時の参加者が自主的に組織運営しており、今後はボランティア活動など自主運営に向けて検討する。	100	A
	(3) 生涯学習関連施設の整備充実と活用					
■ 総合文化センターの管理 (アストくにさき)	アストホール他貸館業務(利用度)	4月～3月までの稼働率 アストホール=23.0%(25,010人) マルチホール=70.5%(19,526人) スタジオ=57.7%(2,490人) キャラリー=36.7%(2,490人)	アストホール、スタジオ、キャラリーの活用は、昨年並みであった。マルチホールの利用は、各種会議・研修会等の増加により、利用率10%の増となった。	100	A	
	アストホール舞台技術業務委託 (アストホール使用日に、舞台・音響・照明の専門技術者を派遣依頼)	年間派遣技術者数 延べ213人 委託料 4,821,894円(年間派遣日数66日)	平成25年度利用率は、若干減少した。当館からの依頼に対して、未対応なし 今後とも、貸館希望と業者派遣対応の現実性を維持	100	A	
	時間外、土日祝祭日への対応(シルバー人材センターへ委託)	職員の超過勤務解消(日直)	職員の超過勤務は減少傾向にある。一方、利用者に対しては、予約管理及び納付書の発行、使用料の収受ができず、利用者には不便をかけているが、平日午後6時までは職員が当番制で対応している。今後の検討課題は、利便性の向上対応	100	A	
	その他、施設の管理・保守点検業務	消防、衛生、空調、電気、エレベーター、舞台吊物・音響・照明等の各種設備保守点検	アグリ側は築23年、アスト側は築12年を経過。保守点検・修繕を行い施設の維持をはかる。特に、アストホールの舞台機構設備については、保守点検業者からの指摘もあり、大規模な改修工事が必要である。しかし、費用が多額となるため、改修計画を立てて順次改修する必要がある。	100	B	

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価		
生涯学習の振興	■ 学習センターの管理 (みんなんかん)	みんなんかん貸館業務(利用度)	4月～3月までの利用人数21,273人 ホール=6,863人(稼働率/30.36%) その他貸館=14,410人	公民大学等各講座の学級生の高齢化・減少が少しずつ進んでいる。	80	A		
		舞台技術業務	職員が交代で対応している。	小規模舞台は職員対応で可能。大規模舞台については、委託業者への業務委託が望ましいと思う。	90	A		
		時間外、土日祝祭日への対応	職員の超過勤務解消(貸館業務は総合支所日直に依頼)	代休制・フレックスタイム制等の積極的な活用を行う必要がある。 生涯学習課からの業務支援を行う必要がある。	80	B		
		その他、施設の管理・保守点検業務	消防防災設備・空調機・エレベーター・舞台吊物・可動席等各種設備保守、国見生涯学習センターヒートポンプエアコン、ホール緞帳、玄関自動ドア修繕	建設後13年以上が経過したため、修繕箇所の早期対応の必要がある。	90	A		
	■ 武蔵セントラルホールの管理	セントラルホール他貸館業務(利用度)	4月～3月までの稼働率 セントラルホール=15.6%(5,052人) 公民館=92.4%(23,948人)	職員減により音響、照明の操作が困難。	100	B		
		舞台技術業務	職員	職員減で、対応できる業務が限定しつつある。	100	B		
		時間外、土日祝祭日への対応	職員の超過勤務解消(日直)	専門職員の不足。	100	B		
		その他、施設の管理・保守点検業務	消防、衛生、空調、電気、舞台吊物・音響・照明等の各種設備保守点検	照明の老朽化。	100	B		
	■ 安岐公民館	公民館貸館業務(利用度)	4月～3月までの稼働率(大ホール10.0%、中央公民館96.7%) 大ホール=3,730人 公民館=24,888人	施設・設備の老朽化、交通手段等の不備により利用が制限される	100	B		
		舞台技術業務	職員が交代で対応	設備・機器が不十分で、利用が制限される。	100	B		
		時間外、土日祝祭日への対応	職員の超過勤務解消(保守管理は警備会社に委託)	予約管理及び納付書の発行、使用料の収受ができず、利用者に不便をかけているが、事前予約で対応。	100	B		
		その他、施設の管理・保守点検業務	事務室、103会議室エアコン交換	大ホール、耐震判定結果と雨漏り、駐車場がないことで今後どのようにするのか、検討が必要 プールをどのようにしていくか、また周囲の整備が多数必要。また、隣接グラウンドの専用トイレがない。	70	C		
	(4) 学習成果の活用	■ 指導者として地域等への展開	中央館で習得した内容を、今後は行政区等の身近なところで講師としての生涯学習の普及	一部地区館単位での実施が見られる	自主講座等受講者への働きかけを行う。	100	B	
	学校教育の充実	(1) 幼児教育の充実	■ 幼児教育	幼稚園教育振興プランの活用	幼児教育振興プログラムにそっての保育活動を実施してきた。	100	A	
		(2) 義務教育の充実	■ 教育課程	授業時間数の確保	全学校において標準授業時間数の確保ができた。	児童生徒の実態に応じて標準授業時間数を確保するとともに教科等において余剰時間の活用について計画的に軽重を考えていくことが必要である。	100	A
				読書活動の推進	小学校で100%(11/11)、中学校で75%(3/4)の学校で週1回以上読書タイムを位置づけている。	読書活動のねらいを明確にし国語科等の授業(並行読書等)とつなげる活動を組んでいく必要がある。	90	B

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
学校教育の充実	■ 指導方法の工夫改善	図書館教育の充実	標準冊数の達成率が小学校で100%(11/11)、中学校で100%(4/4)である。	今年度中に蔵書率100%をめざす。	100	A	
		少人数指導、TT指導の実践	加配配置校はTT指導、少人数指導に取り組んでいる。	今後は習熟の程度に応じた指導に取り組んでいく必要がある。	100	A	
		1時間完結型授業、板書の構造化の実践	全学校において、大分スタンダードとして積極的に取り組んでいる。	参観授業の大切な視点として、今後も取り組んでいく必要がある。	90	A	
		「わたり」、「ずらし」の複式授業	複式学級のある5小学校全てで取り組んでいる。	学校によっては、学力支援教員等を活用し、学年対独で授業を進めている。	100	A	
	■ 英語教育の充実	ALT外国語指導助手を雇用し、英語教育の充実を図る	小・中学校すべてに派遣でき、効果があった。	今後も継続していくことが大切である	100	A	
	■ 教育の情報化	情報教育年間指導計画	小学校で100%(11/11)、中学校で100%(4/4)の学校で作成している。	全学校で作成することができた。	100	A	
		ICTを活用した授業実践	ICT活用授業に取組み、公開授業では全学校に公開した。	視覚的機器の充実により全学校で取組んでいる。今後はより効果的な活用方法を研修していく必要がある。	80	B	
	■ 体験活動	体験活動の実施	小・中学校とも全学校で取組んでいる。	教科の関連性を持たせていく必要がある。	90	B	
		国東市歴史体験学習館等の活用	小学校で82%(9/11)、中学校で50%(2/4)の学校で活用している。	市のバス利用もあるので、年間指導計画に位置づけておく必要がある。	70	B	
	■ 授業公開	授業公開の実施	全学校で実施している。	日常的に授業の相互公開を行なっていくことが大切である。	100	A	
		「学校だより」の配布	全学校で作成、配布している。	各学校で工夫した学校便りが発行されている。	100	A	
	■ 情報公開	学校施設の公開	小学校で100%(11/11)、中学校で100%(4/4)の学校で地域等の要望に応じて施設の公開を行なっている。	施設の公開を通して地域のコミュニティとしての中核的役割を果たしていくことが大切である。	100	A	
	■ 学校評議委員会	学校評議委員会の実施	全学校で年3回実施している。	今後も意見等を学校運営に生かしていくことが大切である。	100	A	
	■ 学力向上会議	学力向上会議の実施	全学校で年2回実施している。	意見等を学校運営・授業実践に生かしていくことが大切である。学校側の会議の運営での工夫が必要である。	100	A	
		小学校、中学校学力問題等連絡会の実施	全中学校ブロック(4ブロック)で年3回実施している。	意見等を学校運営・授業実践に生かしていくことが大切である。	100	A	
	■ 学校評価	自己評価の実施	全学校で実施している。	指導の工夫改善に生かしていくことが大切である。	100	A	
		学校関係者評価委員会の設置、実施、公開	全学校で実施している。	評価項目の見直し、評価の客観性を高めていく必要がある。	80	B	
	■ 学事について	入学式、卒業式、運動会(体育大会)での国旗掲揚・国歌斉唱	全学校で儀式的行事及び体育的行事では、国旗を掲揚し国歌を斉唱している。	学習指導要領に沿って適切に指導していく必要がある。	100	A	
	(3) 特別支援教育の充実						
	■ 特別支援教育	「コーディネーター」「校内委員会」の設置、活用	全学校で位置づいている。	効果的な活用方法について研究が必要である。	100	A	
発達障害児の個別の指導計画の作成と実施		国東市特別教育支援員(22名)を配置し、生活及び学習の個別支援を行ってきた。配置校ではすべての学校で個別指導計画が作成されている。	今後は、個別指導計画の見直しと効果的な学習内容や指導法の研究が必要である。	93	B		

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
学校教育の充実	■ 特別支援教育	関係機関との個別の教育支援計画の作成・実施	個別の教育支援計画を作成している学校が小学校で82%(9/11)、中学校で100%(4/4)である。	特別支援学校に学びながら、関係機関と連携を行っていく個別の教育支援計画の作成が必要である。	87	B	
		特別支援教育支援員の活用	希望している全学校におおむね配置できた。	研修や指導法の研究を行い、支援員の資質の向上を図っていく必要がある。	90	B	
		特別支援学校の活用	日出支援学校の支援を受けた学校が小学校で91%(10/11)中学校で100%(4/4)である。	学校の指導だけでなく、専門的な指導法を受け入れていく必要がある。	93	B	
	(4) 教職員の資質向上						
	■ キャリア教育	年間指導計画の作成	全学校で作成している。	実施しながらの改善が必要である	100	A	
		職場(職業)体験学習の実践	全学校で実践している。	進路指導を見据えた指導が必要である。	100	A	
	■ 授業の相互公開	職員間の公開授業の実施	全学校で公開授業を行なっている。	学校間の差がある。多い学校で年間120回少ない学校で2回、一人1実践の取組が必要である。	100	A	
		指導主事の招聘	全学校で年間4回以上招聘している。	公開授業日だけでなく、日常の校内研究でも招聘していく体制が必要である。	100	A	
	■ 県教育センター等の研修への参加	フォローアップ、キャリアアップ研修・一般研修への参加	フォローアップ研修参加者うち中学校1人、キャリアアップ研修参加者小学校3人である。	教職員自身がライフスタイルに応じた研修計画を立て主体的に参加していくことが大切である。	70	B	
	■ 教職員人事評価システム	面談	「教職員評価システム実施手引き」に沿って年間2回以上面談を持ち指導助言を行なっている。	・面談については、5月・8月・12月の年3回は必要である。評価するうえで具体的な評価基準を定めておくことが必要である。 ・自己申告の目標と具体的方策を能力業績評価と連動させることが大切である。	90	B	
		授業参観	授業参観については、面談前に実施している学校がほとんどであるが、中には年間通して実施している学校もある。	授業参観については、具体的評価基準に沿ってねらいを明確にした参観を行なうことが大切である。	90	B	
	■ 綱紀肅正・服務規律	研修等の実施	全学校で実施している。	計画的な実施と意識の高揚を図るため具体的な事例を通した研修等が必要である。	100	A	
	(5) 心の問題への対応						
	■ 道徳教育	標準時間数の確保	全学校標準授業時間数を確保できている。	児童生徒の実態に応じて道徳的価値による学習の時間数の軽重を図っていく必要がある。	100	A	
		「心のノート」の活用、外部講師の活用	全学校で「わたしたちの道徳」を活用している。	外部講師については、受け入れ体制をつくっていく必要がある。	90	B	
	■ 人権教育	系統的な指導計画の作成	全学校で作成している。	8課題を取り入れた年間指導計画を立てていくことが大切である。	90	B	
		同和問題の授業実践	全学校で実施している。	系統性のあるカリキュラムの作成が必要である。	100	A	
		体験的参加型学習の実践	小学校では100%(11/11)、中学校では100%(4/4)である。	人権感覚を培っていくためには、体験を通して感性を養っていく必要がある。教科等においても取り入れていくことが大切である。	100	A	
	■ 教育相談	スクールカウンセラーの活用	全中学校で活用している。全中学校での週1の配置が実現した。	スクールカウンセラーの小・中学校の交流を行なっていく必要がある。	100	A	
		教育相談室の設置	全学校で設置している。	気軽に相談できる環境づくりのためにも小学校での全校設置が大切である。	90	B	

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
学校教育の充実	■ 教育相談	不登校、保健室登校児童生徒への対応	不登校については、小学校では11校で0名(昨年0名)、中学校では4校で24名(昨年19名)。毎月調査し必要に応じて相談員の派遣を行なっている。	課題のある中学校への丁寧な対応が必要である。	75	B	
		適応指導教室「フレンドリー広場」への通室指導	毎週火・水・木曜日に教育相談員や実技指導員をスタッフとして位置づけ学校・保護者と連携をとりながら実施している。	フレンドリー広場につなぎきれていない不登校児童生徒がいる。	80	B	
	(6) 学校施設の整備充実						
	■ 校舎、施設、設備及び教具等の整備について	校舎、屋内運動場等の施設整備の実施	伊美小学校屋内運動場大規模改修工事、富来小学校グラウンド整備工事を実施	小中学校の校舎等(S56年以前の建物)の耐震工事については完了		100	A
		学校修繕	緊急性のある箇所から優先して実施	老朽化の進んだ施設の対応が必要		100	A
		情報機器の推進	教育用PCについては、学校の中で一番多い学級の児童生徒数分を、また、校務用PCについては、市内の全教員分を配備済	電子黒板の有効利用の推進 パソコン機器の老朽化		100	A
	(7) 学校給食の充実						
	■ 学校給食の目標	学校給食法の目標に沿って、学校給食を実施する。	栄養教諭、学校栄養職員の工夫を凝らした献立により、児童生徒の適切な栄養の摂取と健康の保持増進が図られた。	実践を通じて、食生活が自然の恩恵の上になり立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養う必要がある。		100	A
	■ 食に関する指導	栄養教諭による給食を教材とした食育指導を実施。「美味しい話」「さきちくん便り」等を毎月19日食育の日に発行。	所属校内(国東小学校)8校の指導に加え、所属校外市内一円の学校に対し要請に応じて食育指導を行った。また、刊行物も定期発行を完了した。	児童生徒が、生涯にわたって健康で生き生きとした生活を送ることを目指し、一人一人が正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につけ、食事を通じて自らの健康管理ができるようにすること。		100	A
	■ 学校給食の円滑な運営	献立作成 → 注文 → 納品 → 調理 → 配送 → 配食を一体的に行う。	国東、武蔵の学校給食共同調理場統合に伴う配送業務の遅れや当該調理場の人員配置が懸念されたが、特に問題もなくスムーズな運営ができた。	国東学校給食センターでは、施設面で配送の出発時間に制約される。		100	A
	■ 学校給食施設及び設備の維持及び管理	3調理場(国東、国見、安岐)の施設及び設備について、専門業者による定期点検並びに修理等を行う。	国東学校給食センター蒸気ボイラー及び同所給湯用熱交換機の交換、各調理場における各種調理機器の修理を行った。	安岐学校給食共同調理場の蒸気ボイラー(平成10年4月に設置)は、対応年数が過ぎている。また、民間が経営している国東炊飯センターの施設老朽化は改善が必要と考える。		100	A
	■ 衛生管理について	学校給食衛生管理基準に基づき、調理用機器及び納品から配食までの工程における衛生管理を行う。	通常業務の衛生管理は基より、専門業者による害虫駆除、調理場内の清掃管理、定期検便(月2回)食材検査(年2回)、細菌検査(年6回)を実施、衛生管理の徹底を図った。	施設の建設年度及び法改正によって、各調理場の衛生管理に差異が生じている。		100	A
	■ 安心・安全な食材の確保	地元産の食材確保に努め、学校給食を実施する。	地元農家からの食材確保を積極的に行うため、道の駅くみにみ、夢咲茶屋、ふるさと市場などを活用すると共に国東町学校給食安全・安心農産物供給推進協議会で提案。また、地元漁業者から無償提供された「茎ワカメ」を食材に「茎ワカメの炒め煮」約1,100食を国東・武蔵町内の学校に提供し地産地消を図った。	ジャガイモ、玉ねぎ、人参など季節によって量的確保が困難となる。		100	A
	■ 運営委員会の開催	運営委員会を年1回以上開催。給食費の額、徴収及び会計に関すること。給食費の予算及び決算に関すること。給食内容の充実及び向上に関することなどを審議する。	第1回運営委員会に続き、「消費税アップに伴う給食費の改定について」の役員会、第2回運営委員会を開催。監査会を年3回(市の監査を含む)実施した。	運営委員会の更なる充実を図るため、物資選定委員会、献立作成委員会、学校給食衛生管理委員会等の設置を検討する必要がある。		100	A
■ 環境への取り組み	グリーストラップ、汚水処理施設、浄化槽の保守・点検・清掃。古紙回収及び廃油のリサイクルを行う。	専門業者による各種設備の保守・点検・清掃を実施。廃油リサイクルについては、年間約101千円収入があった。また、調理後の残菜は国東小学校のうさぎの餌とした。	給食の食べ残しについて、再利用を検討。		100	A	

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
	■ 配送業務の委託	配送業務を民間業者に委託する。	平成25年度の配送業務は、入札により開豊産業及びシルバーク人材センターの2社で実施。業務遂行に当たっては、安全運転を第一に心がけ運転日誌並びに運転手自己健康管理票により業務管理を行った。	契約方法を検討	100	A
	■ 食物アレルギーへの対応	国東及び国見調理場において食物アレルギー対応食を実施。安岐調理場については平成26年度より行う。	国見の調理場は1名、国東の調理場では5名の児童生徒に対しアレルギー対応食を提供した。	現状の施設・設備、調理員の人数などにより、除去が可能な食品は、卵、牛乳・乳製品、いか、えび、たこ、貝類等に限ること。	100	A
	■ くにさき地区学校給食調理従事者研修会の開催	国東市及び姫島村の学校給食調理場に勤務する調理員、給食調理場関係者を対象に、食中毒防止や調理技術の向上など諸課題に関する研修やけが防止のための実習を行う。	本年度は講師に、別府大学准教授 高松伸枝さんと大分県防災アドバイザー 藤原龍司さんをお招きし食物アレルギーのことや被災者支援について研修した。参加者37名	姫島村教育委員会と協議し、開催方法を検討	100	A
	■ くにさき地区教育研究協議会の取組（親子料理教室）	各種団体に協力して「親子料理教室」を開催	学校給食部会では国東市PTA連合会南ブロック母親部会と協力して8月3日に「簡単な朝ごはんを作ろう」をテーマに、親子料理教室を開催した。保護者、児童・生徒計29名の参加	参加者の増員を図る。	100	A
学校教育の充実	(8) 子どもの安全性の確保					
	■ 安全教育	防災、防犯教育の実践	全学校で実践している。	関係機関と連携し発生時に安全に行動できる実践的態度や能力を育成することや作成している「危機管理マニュアル」の検証を行なっていくことが必要である。	90	B
	■ 安全対策	安全マップの見直し	小学校で100%(11/11)、中学校で100%(4/4)の学校で実施している。	全学校で定期的の実施していくことが大切である。	100	A
		防犯ブザー、タスキの携帯、点検	・防犯ブザーについては、全小学校の児童に配布し学校で定期的な点検を行なっている。 ・防犯タスキについては、全中学校で活用し、点検を行なっている。	防犯については、日常的な指導と点検が必要である。	100	A
		スクールガードの活用	全学校で組織できているが、小学校では100%(11/11)、中学校で100%(4/4)の学校で活用している。	学校や地域の実態に応じて効果的に活用していくことが必要である。	100	A
	■ 安全対策	子ども連絡所の確認、周知	全小学校で確認、周知を行なっている。	小中学校が連携して中学校でも周知徹底していくことが必要である。	100	A
	■ 生徒指導	生徒指導の会議、研修の開催	全学校で取り組んでいる。	定期的に持ち、積極的な生徒指導に心がけることが必要である。	100	A
		関係機関との連携	窓口になる担当者を決め、連携がスムーズに行く体制づくりを行なってきた。	担当者のみでなく、学校組織として対応していくことが必要である。	100	A
	■ 保健、体育教育	系統的性教育の実践	全学校指導計画を立て、養護教諭とともに授業実践を行なっている。	3年生から6年生、中学生へと系統的な指導内容及び指導体制が必要である。	100	A
		薬物乱用防止教育の実践	指導計画を立て、養護教諭とともに全学校で授業実践をおこなっている。	3年生から6年生、中学生へと系統的な指導内容及び指導体制が必要である。	100	A
体力、運動能力調査の実施		全学校で実施している。	結果を日常の体育指導に生かしていくことが大切である。	100	A	
青少年の健全育成	(1) 健全育成活動推進体制の整備					
	■ 青少年健全育成市民会議の組織	青少年健全育成市民会議の開催	中津少年院の教官を招き講演してもらい、非行に対する意識付けをおこなった。「大人が変われば子どもも変わる」啓発運動。ナイターソフトボール開会式で啓発活動実施。支部ごとにイベント等で啓発活動を実施。	支部活動の充実 啓発活動については、大人の意識が変わったかについては疑問が残る。	90	B
		「大人が変われば子どもも変わる」啓発	ナイターソフト開会式で啓発活動実施 支部ごとにイベント等で啓発活動を実施。	啓発活動が中心となるが、街頭での啓発活動が予定通りできなかった。	60	B

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
青少年の健全育成	■ 青少年健全育成市民会議の組織	国見支部活動					
		役員会1回・地区協議会総会3地区 生徒指導協議会等に参加	地域に根ざした活動が、学校との連携のうえに成り立っている。児童・生徒の問題事象は少なく、挨拶等基本的な行動ができています。	地区公民館制度の導入により、各地区協議会が地区公民館組織の一部となったため、行事の開催内容・予算面での学校との協議が必要。	80	A	
		国東支部活動					
		各加盟団体による近況報告や生徒に対する指導方法などを協議	地域に根ざした活動が、学校との連携のうえに成り立っている。児童・生徒の問題事象は少なく、挨拶等基本的な行動ができています。	小学校から高校までの児童生徒に規律ある生活指導を行うには地域ぐるみの協力が必要である。	80	A	
		武蔵支部活動					
		ジュニアリーダー研修、子ども教室	リーダーとしての資質の向上が図られるとともに、異年齢の児童との活動が展開された。	指導者の養成。	100	A	
	■ 子ども会組織・運営	安岐支部活動					
		・総会で総括と活動計画決定 ・ジュニアリーダーの育成、子供会活動の推進	・ジュニアリーダー九州大会4名参加。 ・サマーコミュニケーション安岐町開催 ・九州瀬戸内駅伝大会等参加協力 ・子供会活動の積極的な取組ができた。 ・子ども会組織化推進 H24、18団体からH25、25団体に増加	指導者・後継者の育成。	100	A	
		各地区公民館へ交付金事業として位置づけ	地区公民館活動交付金算定の中に、青少年健全育成事業分として組入れ(基本割+行政区数割)	地域における状況が異なるため、公民館運営委員会等での議論が求められる。	90	A	
		国東市子ども会組織	統合はしないが、補助金は一括とした。		100	A	
		国見子ども会 子ども会ごとに活動(8単位子ども会)	地区公民館行事への参加や老人クラブとの交流など、地域とのふれあいが図られた。		80	A	
	国東子ども会 子ども会ごとに活動(22単位子ども会)	国東町全体でのドッジボール大会	子ども数の減少に伴って、活動や子ども会が減少傾向にある。子どもたちも社会体育他、多忙である。現状を維持するのが精一杯な気がする。	100	A		
	武蔵子ども会 子ども会ごとに活動(21単位子ども会)	リーダー研修会、軽スポーツ大会を通してふれあいと友情の輪が広まった。		100	A		
	安岐子ども会 子ども会ごとに活動(25単位子ども会) ジュニアリーダーの育成	各種行事への積極的参加		100	A		
	(2) 健全な社会環境づくり	生徒指導連盟協議会による取り組み	子どもたちの健全な育成につながった	学校での活動と校外指導の連携と支部活動の充実	90	A	
(3) 学校・家庭・地域の教育力機能の向上							
■ 学校支援地域本部事業	昨年度武蔵中学校区で実施を全市に展開(4中学校区)	学校支援ボランティアとして学校、家庭及び地域社会の連携が図られた。	平成23年度以降は、「国東市協育ネットワーク推進事業」として展開していく。	60	B		
	人材バンク加入推進	ボランティア登録者:90名	ボランティアの啓発と周知を徹底、活用面での促進	60	B		

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
青少年の健全育成	(4) 青少年の体験・交流活動等への参画促進					
	■ くにみっ子わくわく体験プラン	小中学校企画委員会の実施 リーダーズキャンプ・企画委員による手作りイベント・クリスマス会の開催	子ども(小・中学生)の企画による各行事に、多くの参加者があり、異年齢間交流・各種体験活動が楽しく行われた。	地域ボランティア等、実行委員会主体による事業運営への転換の必要がある。 子どもたちのスケジュールは過密気味であり、日程調整に不測の時間を要する。	90	A
	■ ジュニアリーダー	ジュニアリーダー研修	子ども会の上部組織としての自覚が芽生えた	メンバーの減少・市内全域での活動の場の提供。	100	A
	■ 少年の船	少年の船参加(子ども会抽選、県一般抽選)	市内22名の参加 参加者相互の懇親や体験の話ができる会を設ける。	異年齢交流、体験学習の場として今後とも継続する。	100	A
	■ くにさき探検隊	スキー教室の実施(1月実施)	市内小中学校から29名の参加	スキー以外の研修も考える時期に来ている。	95	A
	■ 成人式	成人式の8月15日開催(市全体)(式典・写真撮影・同窓会):市内住民票居住者と市内中学校卒業者が対象	出席者274人 夏に開催することにより出席者が多い。	新成人に国東市に誇りや、夢と希望を持ってもらう成人式にする必要がある。	100	A
	■ 国際交流事業	安岐中学校韓国交流事業	8月24日から26日(2泊3日)の日程で安岐中学校2年生による韓国交流事業を実施。1月11日から13日で受入事業を実施。姉妹校(彦州中学校)との交流会及び韓国の文化・史跡の研修を実施し、見聞を広めた。	・合併後、武蔵中学校と安岐中学校2校の実施であり、他の2中学校との整合性を図るため、事業の継続もしくは他の交流事業形式を検討していく。 ・受入事業については、入試と重なるためか、受け入れ家庭が少なく苦慮、日程の検討が必要。	100	A
	■ ホランティア体験活動	中高生に向けたボランティアセンターの運営	高校との連携により高校生参加者の増加(国東高校JRCの活動)	中学生の参加促進	75	A
	(5) 子どもの居場所の確保					
	■ 放課後子ども教室の実施	市内の小中学校で毎月1回水曜日の放課後色々な体験活動を行う。	地区民との交流や世代間の交流ができた。	各学校や学校教育課をはじめとする関係部局との連携が必要。指導者を確保する必要がある。	90	B
■ 放課後学びの教室実施	地区民の協力を仰ぎ、年間35回水曜日の放課後、算数国語を中心に学習を行う。	学力の向上がみられた。	90		B	
地域文化の振興	(1) 芸術・文化団体、指導者の育成					
	■ 市文化協会の設立	文化協会連絡会議の開催(国見・国東・武蔵)	よい意見交換の場が持てた。	当面は連絡会議及び相互交流を図る 高齢化による会員の減少	100	B
	(2) 文化行事等の充実					
	■ 文化ホール事業の実施	国見生涯学習センター ・「劇団双六」公演 ・「山崎 ハコ」オータムライブ ・「竹田津 実」講演会開催 ・世界に聴く！みんなかん講演会「島田洋七」開催	・平成25年 7月30日(火)開催:入場者 210名 ・平成25年10月13日(日)開催:入場者 120名 ・平成25年10月27日(日)開催:入場者 110名 ・平成26年 2月23日(日)開催:入場者 229名	自主事業の確保、集客努力 平成23年度、24年度2年間は、「光をそそぐ交付金」を活用して、事業の充実に努めた。今後も、国、県の事業を活用して、ホール事業の充実に努める。	100	A
		アストホール公演事業の実施 ・「ヤマザキヤマト」コンサート ・「石坂団十郎」無伴奏チェロリサイタル ・「神田紅」独演会	入場者数 ・「ヤマザキヤマト」コンサート:120名 ・「石坂団十郎」無伴奏チェロリサイタル:245名 ・「神田紅」独演会:160		100	B
武蔵 センtral講演会(お笑いライブ2014in武蔵)		2/9実施:160名	100		A	
安岐 安岐中央公民館		貸し館のみ	施設の不備・老朽化により運営が制限される。		100	B

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
地域文化の振興	■ 芸能発表、生涯学習発表会の開催	国見 文化芸能発表会(11/10 ちよるちよる祭り)の開催 公民大学修了式(3/16)の開催	一年間の学習成果の発表が行われ、他団体との交流が図られた。	高齢化が進むなか、新規受講者の加入が求められる。	80	A	
		国 文化祭(11/4)	40団体の参加があり、展示(2日)から舞台発表(1日)を行った。菊花展は1週間の展示。	会員の高齢化、地区ごとに組織される協会の相互交流	80	B	
		東 生涯学習フェスタ(2/9)	11/15第1回、12/20第2回実行委員会開催、2/9フェスタ開催 18団体舞台出演、15団体の体験教室開催 集客数延べ500名	集客数、1団体の発表時間が少ない等の課題解決(フェスタの開催方法は実行委員会協議)	90	A	
		武蔵 武蔵カルティバル(2/16)	発表団体・作品展示数の増	自主事業の確保、集客努力	100	A	
		安岐 公民館祭り(3/10)	1年間の学習成果の発表	発表会場が満足な施設でない	100	B	
	(3) 文化財の保存						
	■ 文化財調査委員会の開催	市指定文化財の審査8件答申3件/委員会3回開催/市外研修	文化財の指定審査、調査が適切に行われ文化財の保護保存が図れた。			100	A
	■ 国東市歴史体験学習館の管理・運営	管理運営実施及び常設展示、企画展5回、各種体験事業、講座開催、古代祭り等イベントの実施	入館者数14,677人、体験者数3,733人	施設を活用する新企画・イベント・新体験事業を多く開催し施設をリファインさせ利用者増を図る必要がある。		100	B
	■ 三浦梅園資料館の管理・運営	管理運営実施及び常設展示、企画展1回実施。	入館者数2,598人	新企画展を多く開催し利用者増を図る必要がある。		100	B
	■ 山溪偉人館の管理・運営	管理運営実施及び常設展示の実施。	入館者193人	常時開館し、利用者増となった。更なる周知が必要である。		100	A
	■ 諸田御田植伝承館の管理・運営	管理運営実施及び常設展示、伝承活動、祭りを実施。	伝承館としての利活用が図られた。	利活用の更なる促進が必要である。		100	A
	■ 埋蔵文化財(安国寺集落跡地)の保存活用	安国寺集落跡地の維持管理保存活用体験事業の実施。	集落跡地公園の無料開放によりその活用が図れた。	安国寺集落跡地の保存活用維持管理の強化とその活用増進が必要である。高床式住居及び竪穴式住居の茅葺が経年劣化しており、年次計画により葺き替えが必要。		100	A
	■ 史跡三浦梅園旧宅の維持管理活用	国指定史跡維持管理・保存の実施、一般開放により活用がなされた。	国東市の重要な観光ルートとして一定の成果が上げられた。	更なる広報宣伝PRの徹底が必要である。		100	B
	■ 無形民俗文化財の伝承活動に対する補助	指定伝承14団体に対する指導助成の実施により伝承活動の継続が図れた。	伝承継承がなされ、全て発表も実施された。	高齢化による後継者不足と伝承活動のあり方。		100	A
■ 指定文化財の環境維持管理	指定文化財の草刈等環境整備の実施。	文化財周辺草刈、常時見回りを実施し文化財の保存が図られた。	所有者の高齢化による管理困難な物件が多い。		100	A	
■ 指定文化財の説明板設置による文化財啓発活動	文化財説明板設置・改修を行う。	説明版を3ヶ所設置し、指定文化財の活用が図られた。	指定物件数が多く、事業完了に多年を要する。		100	A	
■ 文化財調査委員による指定文化財の保存点検活動	文化財調査委員による見回り点検清掃及び盗難チェックの実施。	各地区の文化財調査委員による見回り点検・清掃が実施された。	文化財調査委員の高齢化により活動内容の見直しが必要。		100	A	
■ 文化財愛護少年団の活動助成	文化財の学習、伝承及び清掃活動の実施	少年団15団体による学習、伝承、清掃、啓発活動が行われた。	小学校統合に伴い既存愛護少年団の編成が困難となりつつある。		100	A	
(4) 文化財の活用							
■ ペト・カスイ岐部フォーラムの開催	県内6市町で締結しているキリシタン南蛮文化交流協定に基づき郷土の偉人岐部神父のフォーラムを関係市町参加のもと実施(記念講演、パネルディスカッション、グリークラブによる合唱)	岐部神父を軸に県内関係市町との連携強化が図られた。すべて国庫補助のため財政健全化に寄与できた。熊毛小児童を始め多くの生徒の参加により、岐部神父の生き方を通して道徳的側面から子供たちへのアプローチが出来た。	キリシタン・南蛮文化交流協定を通じて、関係各市町との連携により、これからいかに観光面での充実を図っていけるか。		100	A	

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
	■ 三浦梅園没225年祭開催補助	ふるさと国東の偉人伝に掲載されている三浦梅園の顕彰のため没後225年という節目の年に、実行委員会によるフォーラム開催補助。(記念講演、パネルディスカッション)	郷土の優れた先人の功績を再確認することにより、さらなる郷土への愛着と誇りを市民に訴えることが出来た。	一過性にとどまらず、常に郷土への想いを持ち続けること及び地域のさらなる活性化が必要。	100	A
	■ 安国寺史跡、三浦梅園旧宅史跡、歴史体験学習館等史跡・有形無形文化財を活用した事業	保存活用事業(国庫補助事業)により学習館体験事業など文化財活用事業を実施した。	古代祭り、体験活動、企画展、各種講座、を実施した。	より一層の文化財を活用した事業展開が必要。	100	A
生涯スポーツ振興	(1) スポーツ施設の整備拡充・有効活用					
	■ 施設整備の充実と安全指導、管理の充実	施設の老朽化に伴い、修繕を実施した。2名のグラウンド整備員を配置することにより、国東・武蔵・安岐地区のグラウンド整備を行なった。国見地区の体育施設は、指定管理者の下に、整備を行なっている。	(国見) 国見野球場グラウンド等改修工事 (国東) 国東体育館耐震補強工事 (安岐) テニスコート改修工事	施設の老朽が激しく、計画的な改善を実施しなければならない。また、スポーツ施設建設計画等により、計画的に更新すべき。	100	A
	(2) スポーツ団体、指導者の育成					
	■ 総合型地域スポーツクラブの育成及び発足の推進	総合型地域スポーツクラブの育成、助言、指導。	現在、923みんなんクラブ(国見町:NPO法人)と夢さきスポーツクラブ(国東町)があるが、各々活動してはいるが、単独での運営が困難しており、ふたつを合併し、武蔵・安岐を含め国東市でひとつの総合型スポーツクラブを発足させようとスポーツ推進委員らと準備委員会を開催し、検討している。	国東市でひとつの総合型スポーツクラブ発足に向け、組織作りが急務である。	100	B
	■ スポーツ少年団の育成	スポーツ少年団の育成、助言、連絡調整	大分県スポーツ少年団34団体、国東市スポ少は36団体が登録	本年度にスポーツ少年団の連絡協議会に向けての会議を開催した。今後は各団との連携と交流を図る必要がある。	100	A
	■ 指導者の育成及び指導体制の確立	スポーツ推進委員協議会の開催	スポーツ推進委員協議会役員を3回開催、また、全員研修会を実施した。	自らの軽スポーツ普及活動が行なえるような体制作りしなければならない。	100	A
	(3) スポーツ活動の普及促進					
	■ 国東市体育協会	国東市体育協会の運営による各種事業推進	運営費の効率的執行による、各種事業を推進した	今後は本市のスポーツ推進計画を指針として、総合型スポーツクラブと連携し、市民にスポーツに親しむ機会の提供と競技スポーツの向上を図らなければならない。	100	A
	■ 競技スポーツの振興及び競技力向上対策の促進	第66回県民体育大会	33団体 469名が出場して、総合11位・C部2位	競技力向上を図るとともに競技人口の拡大を行なわなければならない。	100	A
		第56回県内一周大分合同駅伝大会	2月17日から2月21日にかけて実施 成績:総合9位・C部2位	長距離選手の確保と発掘を図らなければならない。	100	A
(4) スポーツ大会等の開催						
■ 九州瀬戸内高等学校駅伝大会	男子駅伝も加わり、毎年12月に実施される、全国高校駅伝の前哨戦と位置づけられ、西日本・九州各県・県内の高校から強豪チームが健脚を競う。	男子23チーム・女子30チームの参加のもと9/29開催した。市外より、多くの人が集まり熱気ある大会となった。	男子フル・女子ハーフのコースを再検討し、より良いものとする。	100	A	

平成25年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成25年4月～平成26年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
生涯スポーツ振興	■ 国東市駅伝競走大会	17チームが16区間26.1km健脚を競った。	272名の選手が力走して、沿道では多くの市民の応援があった。また、各地域で大会までの練習を含め多くの市民とのコミュニケーションが図れた。また、当日は多くのボランティアの協力を得ることができた。また、閉会式会場では、婦人団体の接待で市民が親睦・交流を図ることができた。	伊美小学校前の道路工事がおわり、暫定コースから正規コースとなり、より安全性の高い大会とする。	100	A
	■ ナイターソフトボール大会	地区大会、決勝大会を開催した。	82チームの参加があり、地区予選を勝ち抜いた8チームで決勝大会を開催し、市民の親睦・交流が図れた。	試合の運営方法や要項等検討しながら、より良い大会を目指す。	100	A
	■ 小学生陸上記録会	小学生を対象に、陸上競技に興味を持ってもらうために開催した。	荒天のため中止。	大会運営について検討しなければならない	100	A
	■ 小学生陸上競技教室	市内小学3年生以上を対象に各週土曜日の計12回、開催した。	35名の参加があり6月から11月にかけ12回開催し県大会に出場した。	体育協会事業の運営について、総合型SCを活用できるようにしたい。	100	A
	■ 小学生水泳教室	小学生を対象に、水に慣れ、水泳競技に興味を持ってもらうために開催した。	市内小学校5校289名の参加があった。	小学校・PTAと連携しより良い方法を模索する。	100	A
	■ 小学生水泳フェスティバル	小学生を対象に、水に慣れ、水泳競技に興味を持ってもらうために開催した。	市内小学生22名の参加があった。	市内全域からの小学生参加者を促進しなければならない。	100	A